

第43回日本薬剤師会学術大会 報告書

山口県学校薬剤師会 理事 河添真一

日時：平成22年10月10日(日), 11日(月・祝)

場所：長野県長野市

< 10月10日(日) 14:00~15:00 口頭発表 >

くすりの正しい使い方(薬育)授業の工夫

品川学校薬剤師会 早坂 幹生

- ・ ×によるQ&A方式で正解すると、シールを貼っていき全部正解すると1枚の絵に。
- ・ 模擬授業などを行い、月に1回勉強会を開催している。
- ・ ワークシートの活用 書かせる事によって理解度が深まる
- ・ 新しい実験(氷水とお湯での薬の溶け方の違い, シップの試用など)

平成21年度全国学校保健調査集計結果について

日本学校薬剤師会 大瀧 晴恵

- ・ 学校環境衛生基準の旧基準では最後の調査となるため、設問は学校環境衛生全般に亘るものとした。
- ・ 全国51551校中、回収された31362校を基に集計した。
- ・ 騒音の項目の実施率が9.3%で最も低い。測定機器が整備されていないのが原因
- ・ 日常点検では実施はしているが、およそ80%の学校で記録を残していない。
新基準においては記録を3年間保存することが望ましいとされている。
- ・ 学校薬剤師は定期検査を確実に実施する事、また改善が必要な場合にはいつでも適切な指導・助言ができるよう日頃から情報収集に努めると、自身のレベルアップに繋がる。

中学生は薬をどう考えるか(第2報) - ジェネリック医薬品に関する教育 -

本郷学校薬剤師会 中野 美樹子

- ・ 中学生へのジェネリック医薬品への理解度を深めるために、薬教育のあり方を検討する目的で講習前後のアンケート調査を行った。
- ・ 講習後18ヶ月後に事前アンケートと同じ内容の意識調査アンケートを実施し、正答率を比較した。(事前アンケート 2週間後に「健康講話」 18ヶ月後に意識調査アンケート)
- ・ アンケートの項目: 「医薬品の適正使用について」, 「セルフメディケーション・OTCについて」, 「薬価・薬剤師資格について」, 「ジェネリック薬について」
- ・ 講習後、18ヶ月経っていても生徒は覚えている。
- ・ 学年が上がっていくにつれて、正答率もあがっている。中学1年生からでもジェネリック医薬品に関しての教育を始める時期として早すぎる事はないが、学年毎に講習内容の難易度を考慮する必要がある。

義務教育における「くすりの適正使用教室」への取り組み

社団法人相模原市薬剤師会 菅野 宏一

- ・くすりの適正使用について、学習指導要領に「学校薬剤師が行うべき」と明記されていないのが問題なのではないのか。
- ・市教委と交渉し、学校薬剤師がくすり授業をするべき。
- ・オリジナルパワーポイントの作成。

くすり教育に対する実態調査の結果報告と今後の展開

名古屋市学校薬剤師会 澤井 恒伸

- ・110校の全公立中学校において、タバコ・アルコール・薬物乱用防止またくすり教育に取り組んでいるかどうか、誰が実施をしているか、くすり教育が実施になった事を知っているか、くすり教育を実施するようになった場合、それに関わることが可能かどうかを実態調査した。
- ・11校(10.7%)がくすり教育をすでに実施している。
- ・学校薬剤師が誰でもくすり教育ができるような体制を整える必要がある。
- ・学校側のニーズに合ったくすり教育のオーダーメイドが必要になる。

< 10月10日(日) 15:00~17:30

分科会7 ストップ薬物乱用、チャレンジくすり健康教育 学校薬剤師の新時代 >

学校薬剤師の役割と期待

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 北垣 邦彦

- ・薬物乱用防止教室は全ての中高において、年1回の開催が望ましい。
- ・生徒の発達段階に配慮して、基礎知識を学年毎に深めていく。
- ・現実的な時間の制約を考えると、くすり教育の授業として各クラスに出向けるのか？授業の質の均等性は保たれるのか？
- ・くすり教育の学校薬剤師の活用例
(例1)保健体育主任がどうしていいか悩む 養護教諭に相談する 学校薬剤師に相談する
保健体育主任の作成した授業案を見てもらい、具体例を足してあげる 保健体育の先生が授業を行う
(例2)保健体育主任がどうしていいか悩む 学校薬剤師に相談する 授業案を一緒に作成する TT(チームティーチング)として授業に参加する。

北海道薬剤師会の取り組み

(社)北海道薬剤師会 常務理事 宮下 元樹

- ・小樽市で起こった昭和5年3月の事件(アスピリンと昇永の誤飲)の教訓を心に刻み活動している。
- ・平成10年に学校現場における薬物乱用防止啓発活動の参考とすることを目的に、教育委員会の協力を得て、北海道内の中高生2万人に「薬物乱用についてどのくらいの知識を持ち、どのように考えているのか」のアンケート調査を行った。

- ・その結果の一つに、薬物乱用は「個人の自由である」と答えた割合が、総務省の全国調査と比較し2倍近くあった。
- ・依存性という言葉は知っているが、それに苦しんでいる人がいるという事は知らない。

静岡県における「薬物乱用防止対策事業（薬学講座）」の取り組みについて

（社）静岡県薬剤師会 理事 石川 滋彦

- ・検査器具の使い方 講義のやり方は、以前はベテランの学薬の先生に付いて行って学んでいた。現在はなかなか時間が取れないので、会の新人研修会で教えている。
- ・薬物の恐ろしさをシンナーとマウスを使って実験していた。現在はしていない。
- ・生徒用テキスト（表紙：小学校はダメ。ゼッタイ君、中高は薬物乱用に関して生徒が作成したポスターを採用）、講師用テキストの作成。
- ・薬学講座は毎年4月～翌年2月末までに実施している。
- ・平成11年～13年は検挙率が上がっているが、薬学講座を継続して開催しているおかげか、その後は検挙率が下がってきている。
- ・やはりパワーポイントは効率的で効果的。

薬乱防止もくすり教育も携わるのは学校薬剤師

熊本県薬剤師会学校薬剤師委員会の取り組み

（社）熊本県薬剤師会 常務理事 富永 孝治

- ・熊本県下どの学校薬剤師でも薬乱教室がやり易いように、パワーポイントに効果音や動画を入れて、より使いやすいようにした。児童・生徒たちも飽きない。
- ・全国的に学校薬剤師のマニュアル化が徹底していない。学校薬剤師の当たり外れがないように、「標準学校薬剤師制度」の導入を提案する。